

池中だより

- 【教育目標】
- すすんで学び実践する人
 - 感謝する心を持ち責任を果たす人
 - 心身ともに健康な人

9月号

平成24年8月27日

豊島区立池袋中学校

「すごい夏休みでした」

校長 堀 利光

第30回夏季オリンピック大会が7/27～8/12までロンドンで開かれました。204の国や地域から約11,000人の参加者が26競技302種目で力の限りを尽しました。ちょうど夏季休業と重なりテレビ中継を見て応援した人も多かったのではないのでしょうか。

この一瞬にすべてをかけて臨み、栄光をつかんだ人、悔し涙を流した人、彼らの一言には人生のドラマが詰まっていました。

卓球女子団体で銀メダルを手にした福原 愛選手。三才から始めた卓球。『小さい時からオリンピックでメダルを取るのが夢で、20年かかったが、夢はちゃんとかなうんだな。頑張ってきて良かったなって…。』

アテネ・北京オリンピック2大会連続二冠を達成したが、今大会は個人でメダルを逃した北島康介選手に対して、チームメイトの松田丈志・入江陵介・藤井拓郎の3選手はこの合言葉を胸に400mメドレーリレーに臨みました。『康介さんを手ぶらで帰らすわけにはいかないぞ。』結果は銀メダル。北島選手も『個人で取れなかったものを、最後にかけさせてもらったから。もう何も言うことはない。』と。

そして、冒頭の言葉は男子400m個人メドレーリレーで銅メダルを獲得した高校三年生スイマー萩野公介選手の言葉です。

さて、37日間の夏休み期間中、学校でも7月23日（月曜日）から五日間、全学年で国数英の三教科で基礎学力の定着をめざして「サマースクール」を実施しました。述べてにして350名の生徒が取り組みました。これと並行して3年生は三者面談を行い、進路に向けての共通理解を図りました。また、小中連携の一環として、池袋第一小学校・池袋第二小学校・文成小学校へ30名の生徒がアシスタント先生として教えに行ってくれました。24日（火曜日）からの四日間は夏季水泳教室を行い、延べ120名が参加しました。

部活動においても、各部が猛暑の中、練習・練習試合・大会等でがんばりました。

学校を離れて、家庭や地域で有意義な活動をした生徒も多かったことでしょう。そうです。一人ひとりの生徒が胸を張って『すごい夏休みでした』と言えることが出来れば、この夏休みは充実したものであったに違いありません。

何も大それたことでなくても良いのです。自分自身が「やり切った」「がんばった」「満足している」と思えるものなら何でも結構。この気持ちが自分の中にあることで、自信につながり、困難なことに直面しても乗り越える力となり、さらに新しいステップに挑戦していく勇氣となっていくはずです。

今日から二学期が始まりました。2年生の職場体験、生徒会役員選挙、中間考査、学習発表会（舞台の部）、期末考査、三者面談…。主な行事を列挙しただけですが、3年生は進路を見据えて、2年生は池袋中学校の屋台骨を支えて、1年生は新入生から一人前の中学生として、それぞれ持てる力を十二分に発揮してもらいたい。一人ひとりの力が各学年の力となり、それが池袋中学校全体の活力となっていくのです。

